

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 境港出雲道路 一般国道431号 松江北道路		事業区分	一般国道	事業主体	島根県
起終点	自:島根県松江市西浜佐陀町 至:島根県松江市下東川津町			延長	10.5km	
事業概要						
一般国道431号松江北道路は、地域高規格道路 境港出雲道路の一部を構成する道路であり、既存の松江だんだん道路とともに松江市街地の外環状道路を形成し、市街地の渋滞緩和や災害時の代替路の確保、山陰道へのアクセス向上等、地域振興や防災機能強化を目的とした事業である。						
R3年度事業化		R3年度都市計画決定		R6年度用地着手		R7年度工事着手
全体事業費		約356億円		事業進捗率		約7%
計画交通量		10,200~13,800台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)	
	1.5	6.9%	260/289億円		446/446億円	
	(参考) 2.4 [2%]		事業費: 248/278億円		走行時間短縮便益: 378/378億円	
	3.1 [1%]		維持管理費: 12/12 億円		走行経費減少便益: 47/47 億円	
	(残事業)	(残事業)	更新費: -/- 億円		交通事故減少便益: 21/21 億円	
(参考) 1.7	7.8%	感度分析 (事業全体)		感度分析 (残事業)		
2.6 [2%]		交通量	B/C=1.4~1.7(±10%)	交通量	B/C=1.5~1.9(±10%)	
3.4 [1%]		事業費	B/C=1.4~1.7(±10%)	事業費	B/C=1.6~1.9(±10%)	
		事業期間	B/C=1.5~1.7(±20%)	事業期間	B/C=1.6~1.9(±20%)	
事業の効果等						
① 交通渋滞の緩和 既に供用済みの松江だんだん道路とともに外環状道路を形成し、市街地を通過する交通の転換・分散が図られ、所要時間の短縮や市街地の渋滞が緩和される。						
② 災害時の代替路機能の確保 災害時の浸水エリアを回避し、確実な代替路を確保することで、円滑な救急活動や物資輸送支援等、防災機能の強化が図られる。						
③ 中海・宍道湖圏域の観光振興 松江市西部、北西部地域から山陰道への所要時間が短縮され、沿線地域の利便性の向上や、観光ルートの定時性・速達性向上による宍道湖・中海圏域の観光振興が期待される。						
関係する地方公共団体等の意見						
都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。 松江市都市マスタープラン(H30.3改定)における交通ネットワーク軸の外循環線として位置付けられ、渋滞の解消や災害への対応の円滑化を推進するものとされている。 沿線自治体で構成される「境港出雲道路(松江北道路)建設促進期成同盟会」や「出雲・美保関間幹線道路整備促進期成同盟会」等から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。						
事業評価監視委員会の意見						
県の対応方針(案)は妥当である。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
周辺環境等に特に変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等
用地進捗率約4%、事業進捗率約7%

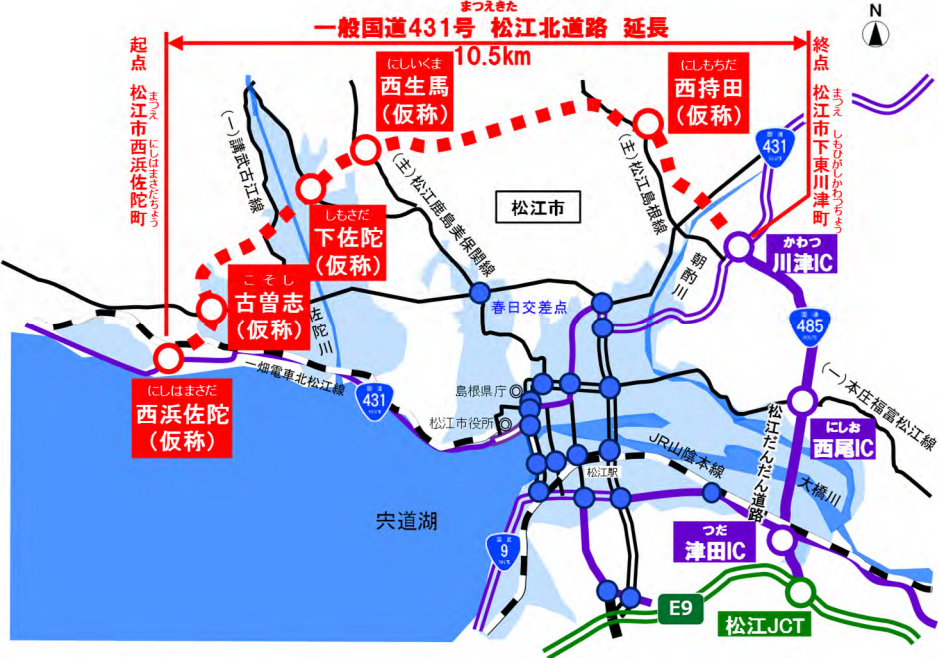
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
残る用地の取得を継続しており、引き続き早期供用に向けて事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等
工法の見直しや建設発生土の有効利用等により、コスト縮減に努めていく。

対応方針 継続

対応方針決定の理由
当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



- 凡例
- 事業箇所 (Red dashed line)
 - 国道 (4車線 2車線) (Blue line)
 - 県道・市道 (4車線 2車線) (Black line)
 - 主要渋滞箇所 (Blue circle)
 - 洪水浸水想定区域 (Blue shaded area)

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([] 内は社会的割引率の値)